

1 2 条点検指摘内容の判定基準について（判定例）

<判定の基準>

A : 指摘なし

B : 軽微な対応、経過観察

C : 要精密検査

Da : 既存不適格

（違反ではないが、現行基準に不適合）

D : 即補修、改善等を要する

D+ : Dの内でも特に施設の運営、利用者の安全に大きな影響があると判断されるもの

判定	指摘の内容の主な例
D+	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懸垂物、ガラス等の落下のおそれがある場合（施設利用者動線上に限る） ・ 躯体の大きな損傷 ◎ 防火区画の不具合（防火設備含む） ・ 非常用照明の不点灯（夜間利用、無窓の居室など陽光がない場合に避難に支障があるもの） ・ 階段、廊下、出入り口の幅の不足（通行に大きな支障のあるもの：概ね幅の1/3が閉塞） ・ 外壁等の剥落のおそれのある部分が施設利用者動線にあり、危険である場合 ◎ 外壁劣化調査を10年以上実施していない（施設利用者に危害を加えるおそれのある部分） ・ 屋根・防水層に明確な損傷があり主要室へ漏水している、またはそのおそれが高い場合 ・ 防煙壁が損傷し機能を維持できないもの ・ 換気設備の著しい不具合（明確な換気量不足、明らかな異音など） ◎ 排煙機に係る不具合（排煙オペレータを含む） ・ 避難上有効なバルコニーの手すりの劣化 ・ 飲料用の受水槽ポンプの不具合等

※上記例示に挙がっていないものは、D+の判定の基準に基づき判断するもの。

◎ は従来D判定だったものがそのままD+に移行するもの

判定	指摘の内容の主な例
D か ら B に 変 更	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常用照明の点検フックの破損 ・ 衛生器具の小規模な破損 ・ 洗濯機の間接排水不適 ・ 排水ドレンの閉塞（排水に明らかな支障がある場合はD） ・ ・ ・